



報道発表資料

2000年6月28日  
インフォテリア株式会社

**インフォテリア、iConnector™、iMessenger™、iXSLT™の Solaris 版を出荷開始**  
本格的な XML ベースの「.com」アプリケーションや B to B システムの開発を容易に

インフォテリア株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：平野洋一郎）は、国内随一の実績を誇る XML<sup>\*1</sup> ベースのソリューション構築を容易にするコンポーネントソフトウェア製品、iConnector for Oracle、iMessenger、iXSLT の Sun Solaris 対応版を、本日より出荷開始したことを発表しました。Sun Solaris は高可用性の求められるミッションクリティカルなシステムで多くの実績があり、今回出荷を開始した 3 パッケージ製品が Sun Solaris 対応となったことで、従来型の個別開発に比べて短期間かつ低コストで、しかも堅牢で柔軟性のある XML ベースのハイエンド「.com」アプリケーションや企業間(B to B<sup>\*2</sup>)システムの開発が可能となります。

iConnector for Oracle は、Oracle データベースと様々な構造の XML データを仲介するソフトウェアです。GUI による設定によって、様々な形式のデータベース定義と様々な構造の XML データを関連づけ、データを双方向で入出力することが可能です。iConnector for Oracle を使用すれば、現在使用中のシステムのデータを XML に変換してデータ交換を行ったり、現在のバージョンのデータベースを使用した XML アプリケーションを組むことが可能になります。

iMessenger は、XML データをインターネットメッセージングプロトコルの標準である SMTP を使用して送受信するためのソフトウェアです。特定のメールボックスを監視し、受信した XML メッセージの送信者や XML データの種別によって処理を分別したり、XML データをまとめて SMTP サーバー経由で送信したりすることができます。

iXSLT は、様々な構造の XML データを別の構造の XML データに変換したり、XML データを抽出、並べ替えを行ったり、また XML から HTML や Compact HTML<sup>\*3</sup>などの XML 以外のデータ形式に変換することが可能なソフトウェアで、W3C より勧告されている XSLT 1.0<sup>\*4</sup> および XPath 1.0<sup>\*5</sup> に完全準拠しています。さらに、Solaris 版固有の機能として、Java インターフェイスも装備し、Java アプリケーションから iXSLT の全ての機能を使用できるようになっています。

## 価格

各製品の価格は、iConnector for Oracle が 160 万円 / サーバー ( 税別 ) , iMessenger が 80 万円 / サーバー ( 税別 ) , iXSLT が 40 万円 / サーバー ( 税別 ) となっており、対応環境は全て、Solaris 2.6, 7 および 8 となっています。全国 19 社のインフォテリア XML プロフェッショナルインテグレーターを通じて販売されます。

## インフォテリア株式会社について

インフォテリア株式会社は、国内唯一の XML 専門ソフトウェア会社です。インフォテリアでは、先進の XML テクノロジーをベースに、XML の普及を促進するコンポーネント製品や、企業間(B to B)の電子商取引(EC)およびアプリケーション統合を XML ベースで行うためのソフトウェアを提供しています。

###

## <お問い合わせ先>

記事掲載用 :	<a href="mailto:info@infoteria.co.jp">info@infoteria.co.jp</a>	( 電子メール )
	<a href="http://www.infoteria.com/">http://www.infoteria.com/</a>	( ウェブサイト )
プレス専用 :	03-5783-6505	( 電話 )
	<a href="mailto:press@infoteria.co.jp">press@infoteria.co.jp</a>	( 電子メール )
	担当 : 事業開発部 江島 健太郎	

## <製品概要>

### ■iConnector for Oracle (アイ コネクター フォー オラクル)

- 概要:
- Oracle のデータベースデータを任意の XML 形式で取り出す。
  - 任意の XML データを Oracle データベースに格納する。
  - データベース定義と XML 定義のマッピングを GUI で行う、iRuleGenerator 標準添付。(Windows 上で稼動)
  - Java インターフェイス装備

価格: 160万円 / サーバー

稼働環境: Solaris 2.6, 7, 8  
Oracle 7.3.x, 8.0.x, 8.1.x

出荷日: 2000年6月28日

### ■iMessenger (アイ メッセンジャー)

- 概要:
- POP3, IMAP4 のメールボックスに届いた XML メッセージをピックアップし処理モジュールに渡す。
  - ルートタグの内容により処理の振り分けが可能。
  - XML ファイルを SMTP により送信する。本文による送信、添付ファイルによる送信を選択可能。
  - ウィザード形式の設定画面による簡単設定。
  - ポーリング処理と個別のバッチ処理が可能。

価格: 80万円 / サーバー

稼働環境: Solaris 2.6, 7, 8

出荷日: 2000年6月28日

### ■iXSLT (アイ エックス エス エル ティー)

- 概要:
- XSLT 1.0 (W3C 勧告)に準拠した XSLT 処理機能。
    - 与えられた XML データを、任意の構造の XML データに変換する。
    - 与えられた XML データを、HTML, Compact-HTML, CSV など他の構造のデータに変換する。
  - XPath 1.0 (W3C 勧告)に準拠した XPath 処理機能。
  - Java インターフェイス装備

価格: 40万円 / サーバー

稼働環境: Solaris 2.6, 7, 8

出荷日: 2000年6月28日

## <用語説明／注釈>

*1 XML (エックス エム エル)	eXtensible Markup Language の略。データの内容とデータの構造を切り離し、意味付けされた情報を双方向に交換するための標準データフォーマット。1998年2月10日にW3Cより勧告された。次世代のウェブ上の情報交換フォーマットとして注目を浴びている。  ※参考情報→ <a href="http://www.w3.org/TR/REC-xml">http://www.w3.org/TR/REC-xml</a>
*2 B to B (ビートゥービー)	Business To Businessの略。B2Bとも書く。企業間取引のことで、最近ではインターネットベースの企業間取引を特に指してB2Bと呼ぶことが多い。インターネットベースの不特定他企業を対象とするシステムでは、システムやソフトウェアを統一できないため、XMLをベースとしたデータ交換、システム連携が主流となる。
*3 Compact HTML (コンパクト エイチティーエムエル)	NTTドコモの「iモード」で使用される簡易版HTML。携帯電話での表示を考慮して通常のHTMLから使用できるタグを大幅に削減したもの。ただし、携帯電話専用の独自タグも一部存在する。
*4 XSLT (エックスエスエルティー)	XSL Transformationの略。XSLは、eXtensible Stylesheet Languageの略。XMLデータにスタイル付けを行ったり、XMLのデータ構造を変換するための標準仕様。1999年11月16日にW3Cより勧告された。  ※参考情報→ <a href="http://www.w3.org/TR/xslt">http://www.w3.org/TR/xslt</a>
*5 XPath (エックスパス)	XML Path Language。XSLTおよびXPathで使用するXMLデータ内の指定を行うための標準仕様。1999年11月16日にW3Cより勧告された。  ※参考情報→ <a href="http://www.w3.org/TR/xpath">http://www.w3.org/TR/xpath</a>

以上